

**べと病が猛威を振るっています！
ハウス、トンネルの開放換気管理でもよく育つ！**

NX-SP440

ホウレンソウ

茨城県鉾田市は、関東でも有数の葉物産地で、特にホウレンソウ、ミズナ、コマツナの生産量は群を抜いています。これまで、冬向けホウレンソウには絶対的な品種が存在しましたが、2016年秋冬期のべと病の大発生に伴い、現場では品種の再検討を迫られました。



◆べと病対策は、科学的防除と耕種的防除を組み合わせる

べと病対策には、播種前、生育期間中の適切な農薬利用はもちろん、べと病菌（カビ）の蔓延を防ぐために、ホウレンソウの周辺の通気性を確保して湿度を低く保つ必要があります。特に、ハウスもしくはトンネル等で被覆資材を利用する場合、発芽後は、側面、ハウスでは妻面も開放して内部の空気を常に動かすことで湿度を下げるのが大切です（右写真）。



ハウスの開放換気管理で湿度を下げる

◆渡辺農事がお奨めする「NX-SP440」なら、

①低温伸長性が高い



開放換気管理でも順調に生育します。生育初期から寒さに当てて生育させることで、葉柄のパンクも防ぎやすくなります。

②収穫作業性が高い



写真のように葉柄がしなやかで折れが極めて少ないので、調整作業のストレスや、機械梱包時の絡みが少なくて済みます。

③収量性が高い



葉枚数が多いことに加え、写真のようにしっかりと重さがかかるので、単位面積当たりの束数が稼げます。



今回取材した生産者様は、ハウスの土壌をいかに健康に保つかに知恵を絞っています。土作りにこだわって独自に堆肥を作るほか、収穫後の圃場清掃にも手間をかけています。こうして作られたホウレンソウの美味しさに筆者はいつも驚かされています。ホウレンソウの均一生育のための工夫も大変興味深く、左写真の「NX-SP440」は端から中央まで草丈が揃っています。今回の取材では、長時間に亘りハウス内での撮影にご協力を頂きました。ありがとうございました。

「NX-SP440」は茨城県内では11月蒔きを推奨します。 商品詳細はP19をご参照下さい！